

KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.40, No.4



◀ 展示資料に熱心に見入る来場者

第Ⅰ期展示会『解体新書』が生まれた頃 ～驚きの近代医学前史～



◀ 医学分館百周年記念文庫

附属図書館医学分館が創立百周年

附属図書館医学分館は、大正4(1915)年12月に附属図書館医科分館として設置され、平成27年12月に創立百周年を迎えました。(本号2頁に記事掲載)



Contents

表紙

附属図書館医学分館が創立百周年

TOPICS

- 附属図書館医学分館は創立百周年を迎えました 2
- 狩野亨吉生誕150周年記念企画展「狩野文庫の世界～狩野亨吉と愛蔵書」を開催 3
- 留学生コンシェルジュ・ウィーク2015(秋)を開催 4

LEARNING

- 電子ブックのススメ(7) 5
- 世界各国の最新の新聞を見よう！

SERIES

- 「ゆかりの人々」 6
- 教育学研究科(臨床心理研究コース) 長谷川啓三 教授
- <つながり>の一冊 6
- 『Aではない君と』 高橋 健人

Information

- リユースコーナーの設置 7
- 附属図書館本館で防災訓練を実施 7
- 工学分館「Active Learning Square: Abelujo (アベルーヨ)」をオープン 8
- 国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの開始 8

附属図書館医学分館は創立百周年を迎えました

医学分館は、大正4(1915)年12月に附属図書館医科分館として設置され、平成27年12月に創立百周年を迎えました。1世紀に渡って収集されてきた蔵書は43万冊を超え、学内のみならず、東北地区の諸大学、研究所、病院の医学情報センターとして、先導的役割を果たしてきました。

このたび百周年を記念して、医学分館の所蔵資料による展示会を開催し、本学関係者および多くの一般市民の方々にご覧いただきました。平成27年7月28日(火)～9月10日(木)に開催した『「解体新書」が生まれた頃 ～驚きの近代医学前史～』では、江戸後期から明治初期までの医学書約40点を展示し、30日間で1,046名の方にご来場いただきました。また、11月12日(木)～12月10日(木)には「レオナルドは人体構造の夢を見たか」と題して、レオナルド・ダ・ヴィンチの『解剖手稿』(複製版)を中心に展示し、20日間で112名にご来場いただきました。このほかにも百周年のメッセージ募集や百周年記念文庫の設置等も行いました。

医学におけるこれまでの「知の継承」を綴った展示会が、次世代へと繋ぐ「知のバトン」として、たくさんの方々にお伝えする機会になったとすれば幸いです。

第Ⅰ期展示会 『解体新書』が生まれた頃 ～驚きの近代医学前史～

この展示会では、第1部「中国医学の受容」、第2部「腑分けから外科治療へ」、第3部「蘭方医学の普及」、第4部「はやり病(疫病)への対応」、第5部「医学の啓蒙と普及」、第6部「仙台の医学」の全6部構成で、江戸時代の医学小史と仙台における医学教育の展開をたどりました。見学者からは、「華岡青洲の本、瘍科秘録など興味深かった」「昔の人の観察眼は素晴らしい。これまでの日本人の努力や向上心が現在の医学の発展につながったと思います。今後もこのような展示会を開催してほしい」という声が寄せられました。



▶展示会場の様子



▶オープンキャンパスで気に入った展示資料に投票する高校生

第Ⅱ期展示会 レオナルドは人体構造の夢を見たか

この展示会では、レオナルド・ダ・ヴィンチの『解剖手稿』(複製版)を中心に、ベサリウス『ファイブリカ』(複製版)、『解体新書』により、歴史的側面から解剖学の世界を展示しました。見学者からは「解剖手稿をみるのを楽しみに来ました。解剖図の詳しく美しいのにはびっくりしました」「ダヴィンチの図だけでなく解説に触れ大きな発見がありました。第Ⅰ期展示会に続き、今回の展示もとても興味深かった」「医学史の全体がわかって素晴らしい展示でした。他に貴重な蔵書があればまた開催してほしい」という声が寄せられました。

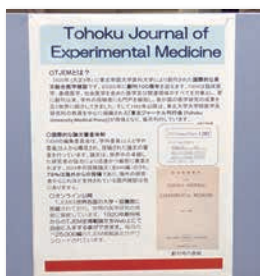


▶展示会場の様子



『東北ジャーナル』紹介

大正9(1920)年に東北帝国大学医科大学により創刊された国際的な英文総合医学雑誌『The Tohoku Journal of Experimental Medicine』(東北ジャーナル)の95周年を記念して、沿革と、医学分館が所蔵する著名な研究者の掲載論文の展示を行いました。



▶著名な研究者の掲載論文

医学分館百周年記念文庫

星陵地区の教員及び名誉教授の先生方から、「百一年目からの後輩達に読ませたい書籍」をご寄贈いただき、「医学分館百周年記念文庫」を新設しました。貸出・閲覧可能です。



▶医学分館百周年記念文庫

祝☆医学分館創立100周年! メッセージ大募集!!!

百周年のお祝い、百一年目からの後輩への激励、未来の自分へ向けてなどのメッセージを募集し、学内外の利用者のみなさまから、約300件のメッセージをお寄せいただきました。



▶お寄せいただいた沢山のメッセージ

狩野亨吉生誕150周年記念企画展「狩野文庫の世界 ～ 狩野亨吉と愛蔵書」を開催

平成27年10月5日(月)から11月3日(火)まで、企画展「狩野文庫の世界 ～ 狩野亨吉と愛蔵書」を開催しました。本展示は国内有数の近世を中心とした資料群、狩野文庫の旧蔵者・狩野亨吉の生誕150周年を記念し、企画しました。

エントランスの展示コーナーでは、プロローグとして狩野亨吉の生涯、人となりや交友関係、業績等を紹介し、本会場の多目的室では、四部構成で10万8千点の資料の中から選りすぐった多様な狩野文庫資料を公開しました。

また、10月24日(土)には、特別講演会、狩野文庫特別ツアー、ガイド付き展示鑑賞会を開催しました。特別講演会は、東北アジア研究センターの磯部彰教授「狩野亨吉の蒐書方針と学術的特色について」と学術資源研究公開センター史料館の曾根原理助教「狩野亨吉と東北大学」の二本立てで行われ、引き続き、ツアー、展示鑑賞会が行われ、全国から集められた狩野文庫に興味をお持ちの方々が狩野文庫を堪能されました。感激した、また開催してほしい、といった心温まる感想がたくさん寄せられました。展示内容や主な展示品は、以下の通りでした。



▶ 磯部教授によるツアー

プロローグ - 狩野文庫の世界へようこそ -

澤柳政太郎全集、狩野亨吉遺文集、漱石全集 など

第一部 - コレクター狩野亨吉 -

東北帝國大学図書館蔵書印、圖書原簿(狩野舊蔵書)、燐寸ペーパー帳、オクダント用法記 など

第二部 - 狩野文庫の至宝 -

萬曆年間北京城内圖、史記・孝文本紀、類聚三代格、君臺觀左右帳記 など

第三部 - 亨吉の探求と再発見 -

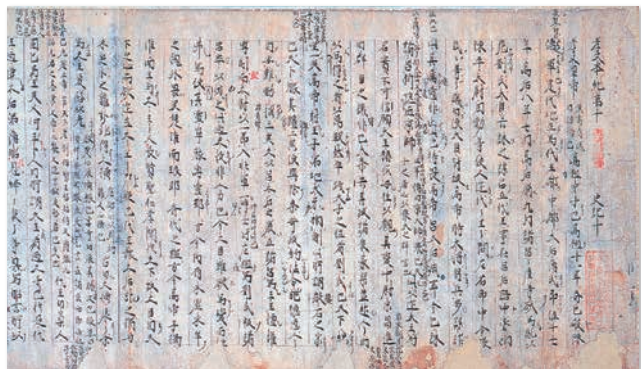
明德館書物目録、菊池容齋印譜、解剖存眞圖、塵劫記、鮫皮精義、漂泊英吉利船圖 など

第四部 - 狩野亨吉の愉しみ -

水族寫眞 鯛部、融齋畫譜、職人盡歌合、繪本狂歌山満多山 など



▶ 展示鑑賞会で熱心に聞き入る参加者



▶ 国宝 史記・孝文本紀

留学生コンシェルジュ・ウィーク2015(秋)を開催

平成27年10月26日(月)～30日(金)の5日間、留学生コンシェルジュによる企画イベント「留学生コンシェルジュ・ウィーク2015(秋)」を開催しました。

今回開催したイベントは、10月に入学した留学生や海外に興味のある学生を対象にしたもので、図書館と関連する様々な支援企画として、7月のオープンキャンパスで開催した「留学生コンシェルジュ・ウィーク2015(夏)」に続くものです。

26日(月)には「第2回グローバルセッション」として、国際文化研究科のサリンラットさんが、「すみませんってお礼の言葉？」と題した、タイ語と日本語の感情表現の違いに関する講演を行いました。日本語の「すみません」には色々な意味があるため、留学生には理解が難しいのだそうです。また、関連図書の展示やタイ語の日常会話及びタイ料理のレシピカードの配布も行い、人気を集めました。

27日(火)～29日(木)には、講習会「情報探索のススメ」のグローバル版として、中国語・韓国語の文献収集講習会「情報探索のススメGlobal」を開催しました。各国出身のコンシェルジュが自国の文献の探し方について、日本語で紹介しました。

並行して27日(火)～30日(金)には、10月入学の新入留学生を対象とした「中国語」「韓国語」「インドネシア語」「英語」による図書館ガイダンスも行いました。

留学生を中心に期間中合計約64人の参加者があり、留学生・在学生の知的交流の場として盛況でした。本館では今後も留学生コンシェルジュのスキルを生かした講習会やイベントを通して、留学生・在学生へのグローバル・ラーニング支援を行っていく予定です。



▶関連図書やレシピカードを紹介するサリンラットさん(タイ出身)



▶中国語によるガイダンスを行う丁さん(中華人民共和国出身)



▶インドネシア語で館内ツアーを行うアルフィアンさん(インドネシア出身)





電子ブックのススメ(7) 世界各国の最新の新聞を見よう！

皆さんは、海外の新聞を読んだことがありますか？ 英字新聞を読んだことがある人は、多いかもしれませんね。しかし英語以外の新聞となるとどうでしょうか。この“Library Press Display by Press Reader”は、世界101か国の新聞を読むことができるデータベースです。今日の新聞から90日前までの新聞を閲覧することができます。新聞誌面のレイアウトは、国ごとの性格が出ていて興味深いです。またアルファベット以外の文字で書かれている新聞は、その文字の独特な形を味わうことができますよ(下のクイズ参照)。

もちろん留学生の皆さんは、母国の最新の新聞を読むことができますので、大いに利用して下さい。

附属図書館HPデータベースツールインデックスからアクセス



国を選び、新聞タイトルを選択



新聞の全ページを読むことが可能



※クイズ：何語の新聞でしょうか？



SERIES

「ゆかりの人々」教育学研究科(臨床心理研究コース) 長谷川啓三 教授

「臨床心理学との30年」

シリーズ「ゆかりの人々」は、「東北大ゆかりコレクション」にちなみ、本学の教職員、卒業生など、東北大学にゆかりのある方々の著書について、ご本人に様々なエピソードを含めて、ご紹介いただくコーナーです。シリーズ14回目は、本学教育学研究科の長谷川啓三教授です。



写真のふたつの著書は、「家族内パラドックス」と「変化の原理」、1986年に東北大学を会場に開催した第3回家族心理学会で紹介をして、その後、全国の臨床心理学の研究者、臨床家に知られていくことになりました。関係者には短期療法と家族療法の我が国での記念的な著書と翻訳書とも言ってもらえます。いずれも筆者が1984年にスタンフォード大学地区にある関連の研究所での訓練を終えて間もなく出版の機会を得ました。Brief Therapy とFamily Therapyという名称をとりあえず、そう翻訳して出版をしました。中心的概念も「偽解決」と「例外」という



訳語にしたものの、熟さない翻訳で、その後に批判を受けるのではないかと心配でもありました。出版から30年近くが経ち、特に後者の「例外」については関係の辞書にも頻繁に掲載され「学

術語」となった感があります。それは家族を含む対人間で、自然に又意識的に設定される「ルール」に対する「例外」を意味します。

家族療法、短期療法は、わが国では丸井清泰教授により東北大学で出発した「精神分析学」の発展形とも言えると筆者は考えています。それは分析が問題にした心理的な問題の発生源としての「家族」を異なる角度から再び研究の対象とすることになる、サリバン派の精神分析家たちが中心になって工夫をしていたものであります。早い時期の家族療法は、M.ボーエンのそのように分析の匂いが濃いものでした。が1956年に「二重拘束理論」が発表されて、理論的な自立を果たします。それは精神分析の「エネルギー論」とは異なり、今日の諸学を貫く「情報」というパラダイムを見越した理論でもあります。

もうひとつの著書「震災川柳」は、東日本大震災でのこころ支援活動の中で出会った被災者自身による、それも被災後1か月を満たない時点で、避難所で詠みだされた川柳を集め、出版のお手伝いをさせていただきました。内容は被災者の当時の行動と心底を知る貴重なもので話題にもなりました。もう一点「大震災からのこころの回復」は、4年を経過した時点での私どもの支援活動のまとめと今後の為の検討を加えたものであります。ここでは家族心理学的な視点が大きな幹になっています。



SERIES

〈つながり〉の一冊 『Aではない君と』

無言のSOSを見過ごさぬように

東北大学教育学部教育学科3年 高橋 健人

シリーズ〈つながり〉の一冊は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上影響を受けた本などを紹介しながら、つながっていく<リレーエッセイ>です。



評論家が少年・少女の殺人事件について語る時、「親は何をしていたんだ」「周囲は子どもの変調に気付かなかったのか」「今後どう責任を取っていくんだ」といいます。そんな報道を目にすると、加害者の少年になった自分を思い浮かべてふと恐ろしくなることがあります。私は留置所で何を思うのだろう。両親は私に叱責し、罪の重さを訴え掛けてくれるだろうか。十数年間懇意にしていた友人たちとの関係はどうなるのだろう、と。本書を読み終えた後でどの子どもにだってそちら側になる可能性は常に潜んでいるのだと痛感しました。

本書の概要をお伝えします。吉永は元妻が引き取った息子の翼が死体遺棄容疑で逮捕されたと告げられます。逮捕されてから口を閉ざし続ける翼から事件の真相を聞き出すため、弁護士が吉永に勧めたのは弁護人の代わりに保護者が話を聞ける「付添人」という手段でした。翼が事件の真相を少しずつ明かしていくと、吉永は父親として自責の念に駆られることになります。「加害者の親」という立場、混乱、戸惑い、息子を信じたい気持ちと過去を振り返っての後悔に苛まれながら、最後には息子と向きあい償いの道を探して共に歩んでいきます。

「子どもが犯した罪の重責を親も一緒に抱え続けなければならない」と本書は教訓的に伝えています。もし私が子どもを持ったら、こんな事態になる前に我が子の無言のSOSにきちんと気付いてあげたい。「少年A」にならないように守ってあげたいと純粋に思いました。江戸川乱歩賞受賞作家の薬丸岳が、中学生の殺人事件から始まった加害者家族の息苦しさを繊細な心情描写と怒涛のストーリー展開で描いた作品です。ぜひご一読下さい。

Information

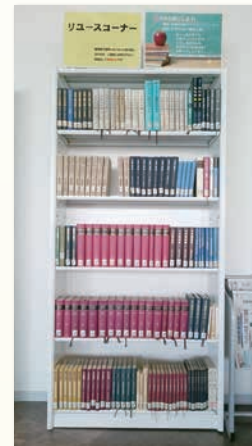
リユースコーナーの設置

図書館で使用しなくなった図書を利用者の皆様へお譲りするため、平成27年12月、附属図書館本館中2階ラウンジにリユースコーナーを設置しました。

配布対象となる図書は、改訂等で内容が古くなったものや複数部所蔵していて、今後も使用が見込まれないと判断されたものです。お一人何冊でもお持ちいただけます。随時入替を行いますので、時間のある時にぜひ見てみて下さい。



▶リユースコーナーポスター



▶リユースコーナー

附属図書館本館で防災訓練を実施

附属図書館本館では、平成27年11月24日(火)に防災訓練を実施しました。

当日は、「文科系4事業場及び附属図書館防災訓練」として、初めて文科系4学部と合同で訓練を行う予定でしたが、生憎の雨のため合同防災訓練は中止となり、附属図書館の単独実施となりました。14時15分に宮城県を震源とする震度6強の地震が発生したことを想定に行われた避難訓練は、大地震発生時の安全かつ円滑な避難方法を身に付け、防災意識と非常時における適切な対処・判断能力を高めることを目的として実施しました。

避難訓練実施の館内放送が行われると、各避難誘導班は分担箇所を確認し、利用者とともに、本館玄関前に避難しました。学生等88名の参加もありましたが、混乱もなく避難はすみやかに行われました。防災隊長である米澤事務部長から「東日本大震災の記憶も間もない現在、例年になく多くの利用者の方々参加により訓練が実施できたことは、非常に大事なことで考えています。今後も、学生、教職員一人一人が防災に関する意識を高く持ちましょう」と訓練を講評しました。

本訓練にご協力いただいた皆さまに、心より感謝いたします。



▶正面玄関から避難



▶図書館前広場にて点呼

Information

工学分館 “Active Learning Square: Abelujo (アベルーヨ)” をオープン

工学分館では、西側1階ロビーの一部と視聴覚室を改修して、グループ学習エリアと語学学習ブースを開設しました。

グループ学習エリアはパーティションで区切られた8の区画があり、1区画あたり6～8名で利用できます。可動式の机と椅子を置いていますので、利用形態に合わせて自由にレイアウトを変えることができます。

グループ学習エリアの奥の橙色の扉を開くとLanguage Studio (語学学習ブース)があります。Language Studioには20の個別ブースがあり、それぞれにヘッドセットを付けたパソコンを使って、ALC NetAcademy2等のネットワークで語学学習ができます。また、TOEFL・TOEIC試験用の学習教材 (図書・CD) も多数取り揃えています。

Active Learning Square
Abelujo

Abelujoはエスペラント語で“養蜂箱”の意味です。人々が集まり活気のある学習の場になるよう命名されました。また、ロゴは工学研究科バイオ工学専攻の鈴木喬之さんによるデザインです。

利用時間は以下のとおりです。

グループ学習室エリア

開館日 (月～金) 9:00～20:00 (春季・夏季休業期間は9:00～17:00)

※青葉山東キャンパス所属で、閉館時に入館可能な方は、その時間帯も利用できます。

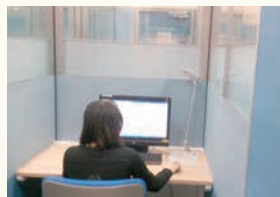
Language Studio

開館日 (月～金) 9:00～20:00 (春季・夏季休業期間は9:00～17:00)

☆Language Studio利用希望の方は学生証・身分証明書を提示して、カウンターにお申し込みください。



▶アベルーヨでグループ学習



▶Language Studioで語学学習



国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの開始

ーさらに100万冊以上の資料を読むことができるようになりました！ー

平成27年12月から附属図書館本館にて、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの提供を開始しました。これは、デジタル化された国会図書館の蔵書約131万冊の内容を附属図書館本館のPCから閲覧することができるもので、複写をすることもできます。次の資料が収録されています。

図 書

昭和43年までに受け入れた図書約51万点

古典籍

明治期以降の貴重書等約2万件

雑 誌

平成12年までに発行された雑誌 (商業出版されていないもの)
約1万タイトル (約73万点)

博士論文

平成3年～12年度に送付を受けた論文 (商業出版されていないもの)
約12万点



利用
(学内者限定)

附属図書館本館のレファレンスデスクで、閲覧することができます。複写を希望する場合は、その場で申し出て下さい。複写料金 (1枚あたり20円) がかかります。

利用時間

閲覧 ▶ 平日 8:30～17:00

複写 ▶ 平日 8:30～16:30

問い合わせ先 附属図書館情報サービス課参考調査係 tel:022-795-5935 e-mail:desk@grp.tohoku.ac.jp



Tohoku Univ. Library
@hagi_no_suke

東北大学附属図書館のツイッター公式アカウントです。東北大学生の学習と生活のためにつばやきます。
http://twilog.org/hagi_no_suke
Sendai, Miyagi, JAPAN